

巻 頭 言

高知女子大学看護学会長

野 嶋 佐由美

コロナ感染症の拡大は留まるところ知らず、都市ばかりでなく全国に広がり猛威を振るっています。2020年12月中旬、高知県においても人口10万人に対する患者数は20人前後であり、全国4-5位となっています。最前線で最善を尽くし、感染症ケア・拡大防止に取り組まれている看護職の皆様に、心から敬意と感謝を表します。

新型コロナウイルスは個人に、個人から集団・地域へと拡大し、様々なシステムへと浸透していきます。システムの各レベルに負荷をもたらし、我々はそれらに対応していますが、それは絶え間なく変化や変革が求められていることでもあります。確かな正解のない状況のなかで、現状を分析し、可能な限り先を予測し、各機関や部門で協働してその時々に対応を決断していくことが求められています。

本学では「新型コロナウイルス感染症危機管理本部」を立ち上げ、教職員一同が協働して、学びの継続を保証し、学生さんの生活や経済的側面を支えるように取り組んでいます。これまで実施していなかった遠隔授業も、体制を整え4月20日から全面的に開始することができました。県内の患者数も減少した6月からは、感染予防対策をとりつつ、対面型と遠隔型を併用し、学生数を制限しつつ、対面での演習科目も開始しています。「リスクレベルに応じた実習方法」を定め、領域看護実習それぞれのリスクに適合する感染予防対策を検討し、12月中旬までに終了するように計画を立てて実施しました。高知県内の感染拡大に伴い、大学全体が1月中旬まで遠隔授業に切り替えています。また看護学研究科は、講義等の大半を遠隔授業で実施しました。看護学部・看護学研究科はコロナ禍のなかで新たな挑戦をして編み出した教育方法等をさらにバージョンアップさせて、次の段階へと進み、変革していくと思います。力を発揮して、大学改革を推し進めていくエンジンとなる信頼できる学部・研究科です。今後の変革に期待し、楽しみにしています。

新型コロナウイルスが発見されて以来、多様な学問領域の科学者が新たな知見を発表しています。NHKスペシャルでは20万あまりの論文をAIを活用して分析した結果を報告していました。この感染症への対応は世界中で連携しつつ、AIなどを駆使して新たな知を見出し、課題解決に向けて動いています。看護が誕生した時から、感染症の患者さんに対しては身体的・心理的・社会的ケアを提供し、環境にも留意して感染予防に取り組み、看護を超えて価値ある知識・知恵を提供し蓄積してきました。今後は、最新の科学的知見を取り入れ、これまでの看護の感染症に関する知恵に統合していくことが求められています。さらに、看護学の感染症ケアに関する専門的知識、暗黙知を発信することによって、また、学際的な感染症研究チームに参画して看護の知を吹込ることによって、感染症に関する知の世界に貢献することが期待されています。

高知女子大学看護学会編集委員会の努力によって、第46巻を発行することができました。編集委員会及び査読の先生方共々サポーターであり、コメントは建設的です。会員の皆様、どうぞこの学会誌をご活用ください。今後も、多くの卒業生や修了生が投稿しやすい学会誌となるように、努力を重ねて参りたいと思っています。